強い東北の創造　**縦」、横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進**

事業名	格子状骨格道路ネットワーク事業 （東北６県）

事業の必要性・事業の概要

事業の概要」

都市間距離と峠と雪を克服し、広域的な交流・連携を促進するとともに、都市と周辺市町村との連携による新しい地域間のつながりを支援するため、高規格幹線道路と地域高規格道路による４本の南北軸、７本の東西軸で構成される格子状骨格道路ネットワークについて、投資効果を最大限に発揮できるよう重点的かつ効率的に整備を進めます。また、新直轄方式の高速自動車国道（3路線 7区間）について、引き続き事業・調査を進めます。

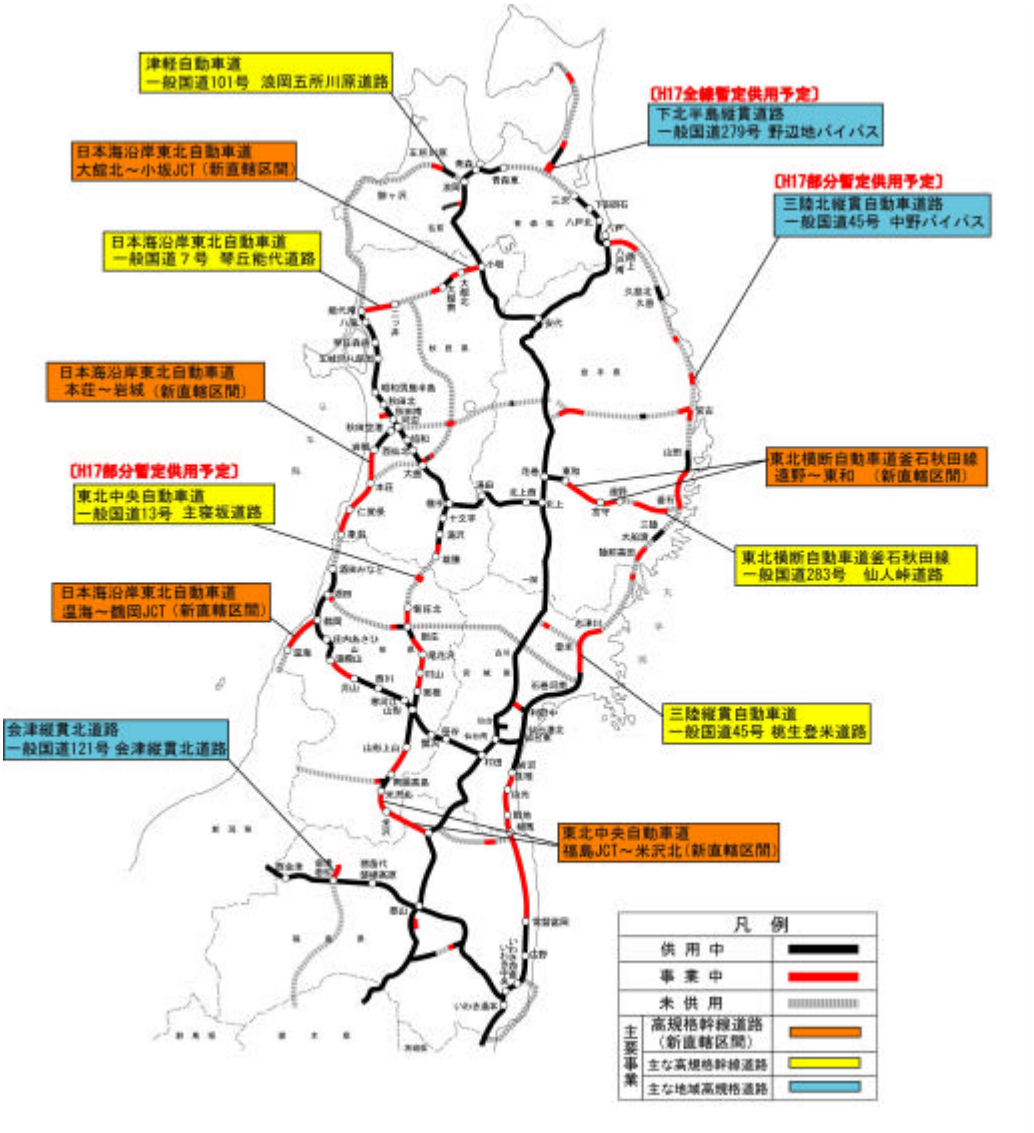
【延長（km）】

		全体計画	H１６末まで	H１７供用予定	H１９末まで
高規格幹線道路	全国	14，000	8，740	－	－
	東北	2，204	1，389	5	1，519
地域高規格道路	全国	6，950	1，620	－	－
	東北	660	82	6	112

成果目標	現在	５年後	長期
規格の高い道路を使う割合	8%	約 9%	約１５%

※目標年次は、「社会資本整備重点計画」(H15～19)に即し、H14年度末を現在とし、５年後(H19)の目標値を設定。

東北地方における自動車専用道路ネットワーク]



H16.8.26 現在　　※事業中には高速自動車国道の整備計画区間、及び着工準備区間を含む

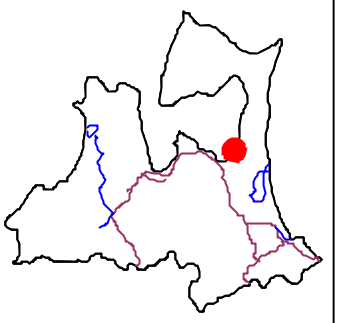
強い東北の創造　**縦」、横」のネットワークによる広域的な交流・連携の推進**

事業名　一般国道２７９号　野辺地（のへじ）バイパス（補助：事業主体　青森県）
（青森県上北郡（かみきた）野辺地町（のへじまち））

事業着手：平成７年度　　**完成・供用の目標年度：**平成17年度全線完成供用予定

事業の必要性・事業の概要

青森県



「事業の必要性」

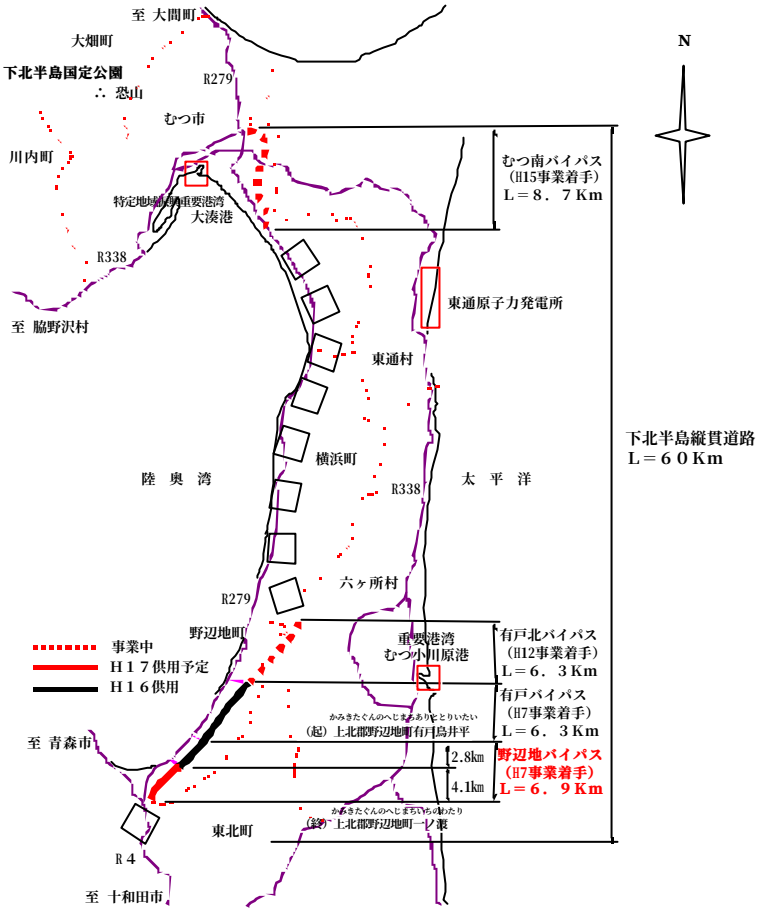
野辺地バイパスは、下北地方生活圏と青森・南部地方生活圏の連携強化、交流促進を目的とした『下北半島縦貫道路』の一部を構成する地域高規格道路であり、青森県が掲げる“県都と生活圏中心都市間1時間圏の確立”に位置付けられています。

下北半島地域は、地勢的な要因により他地域との交流・連携が阻害されていますが、一方では「原子燃料サイクル施設」や「原子力発電所」等、我が国における２１世紀エネルギーを担う重要な国家プロジェクトが進められている地域でもあり、高速交通ネットワークの整備が必要となっています。

「事業の概要」

野辺地バイパスは、平成16年度に供用されている「有戸バイパス」と一体となり、交流圏の拡大や国家プロジェクト支援、救急医療ネットワークの向上等を目的とした延長L=6.9kmのバイパス整備事業です。





○国家プロジェクトの支援



○整備が進む野辺地バイパス

（平成１６年度供用部を撮影）

平成１７年度事業費及び事業内容

○事業費：1，500百万円
○平成16年度にはL=2.8kmを部分供用しており、平成１７年度には残るL=4.1kmと合わせ、全線L=6.9kmの供用予定です。

事　業　効　果

○野辺地バイパスの全線供用による時間短縮
12分（整備前）　→　８分（全線供用後）　4分短縮